

参考書の紹介

清水エミ子著



「愛と規律の保育」

童心社

津守 真

この書物は、実際の保育者の立場から書かれた保育の書物である。だから、保育者としてのみかたや、子どもにはたらきかけいっしょに動いていく人がどのようなところに目をつけていくか、ということがよくあらわれている。幼児教育や保育について書かれた書物はたくさんある。しかし、保育することを書いた書物は少ないのである。外から見ているだけでは何でもないようなことにも、保育者の側には多くの工夫がある。それをこの書物は教えてくれる。

最初に、「十五年目の保育」という章で、著者の十五年間の保育の実際経験から、保育の実際の場に立つときの重要なことを指

摘している。保育者としてまず重要なのはことばでも動作でもなく「心」であるという。——子どもは親の手を離れて、友だちの並んでいる列にいつてみようかなど、ひとり、いろいろな眺めまわして、たしかめ、心の準備をしている最中なのに、おせっかいな先生のわたしが「さあ、いきましょよ」などと、コトバをかけたばっかりに、母親の腕に、ぎゅっとしがみつかせてしまったりする——こんな一節から、保育者が子どもたちに心をぶつけるといことがどういうことかが説かれてゆく。おせっかいな先生のわたしが、「と、わたしと喋って語ってゆくことのできる保育書は、それだけほんものの力強さをもっている。

しかも、その保育者の心は、毎日、磨かれつつあるものであり、子どもにふれて常に新しくされているものであることを、私共はこの書物にふれて知ることができる。

「今日は式だけだから、あしたから本腰いれて」というようなことは保育の世界ではまったく通用しない、その瞬間、瞬間で勝負がきまってしまう。保育というのはき

公開講演のお知らせ

「現代の発達心理学と

幼児教育」

講師 デール B・ハリス氏

お茶の水女子大学

フルブライト交換教授

ペンシルバニア州立大学教授

日時

第一回 一月二三日(金)四時～六時

第二回 二月一四日(金)四時～六時

場所 お茶の水女子大学

附属幼稚園遊戯室

・幼児教育に関心をお持ちの方はどなたでもおいでください。

・ハリス教授は、現代のアメリカの発達心理学の第一人者で幼児教育に深い関心をもっておられる学者です。

つくきびしい勝負である」(P34)といわれるところに、保育者の成長と源泉を見ることのできるように思う。

この書物は、こうして、著者の十五年目の保育の四月から九月までを保育日誌的に順を追って書かれたものである。保育日誌的にとっても、それは事実の羅列ではなくて、保育者の眼が日日新たに開かれていく記録といった方がよいであろう。四月から九月までを大きくわけて、ゴチャゴチャ時代、こわごわ時代、なかよしみつけた、力を合わせて、自分の足で、グループで仕事、ちゃんとできた、というようにいくつかの段階にわけて記されているのもおもしろい。これは幼児のグループの発達の過程を示すのであろう。

平易な記述の中にたくさんのことが記されているので、読者は、ゆっくりよみなながら、技術の面で、教材の面で、幼児の発達の面で、具体的に多くのことを教えられるであろう。私がおもしろく読んだ一節を紹介しよう。

子どもがじっと見ているという場面に私

共はよくぶつかると。「見る」というのは、いろいろの可能性をふくんだたいせつな行動であると思うが、著者はそこから出発して、「見っ放し」の子にならないように、「じっと見て考えられる子にしたい」と思う。そのとき、「ここがこうなっていると思えたいものを知らせてしまうのでなく、あれ、あそこはどうなっているの？あれ、ここなんだろう？」と、疑問を投げかけるだけにしておく」さらに「子どもの目の動きをみつめ、心の動きをとらえ、子どもの心になって、あれ、こんなになつてゐるんだね、こうしてみようか、とヒントをあたえてみる」(P96)そうすると、子どもは、見て、やってみて、前進してゆく。保育者の心の動きがよくあらわれている。そして、こういう経験のつみかさねから、「よく見ることを知らずに育ってしまった子は、やってみることを素通りにしてしまおう」(P97)という著者の洞察による結論が出てくる。このような洞察的結論が、この書物を、たんなる記録にとどめず、保育学的価値のあるものにしていていると思う。

幼児の教育 第六十八巻 第二号

二月号 © 定価八〇円

昭和四十四年一月二十五日 印刷
昭和四十四年二月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館
〒一〇一 振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします